

種子を作る植物は大きく被子植物

と裸子植物に分けられます。種子を果皮で包む被子植物の方が進化形で、その中には果皮を果肉にして鳥にわざと食べられる「知恵者」も現れました。

しかし、旧タイプの裸子植物にも同様のテクニックを持つものがあります。No.53 でご紹介した銀杏は種皮を肥大させて果肉状にしましたが、イヌマキやイチイは花柄の先端部分＝花托(花床)を肥大させました。

写真のイヌマキは上が緑、下が赤の二色団子状で、上の団子が種子、下は果肉状の「偽果」になります。



この偽果は、赤いだけでなくとても甘いのでヒヨドリなどの野鳥によく食べられ、上の種子は捨てられます。できれば遠くに飛んで行ってから食べてほしいのですが、樹の根元に種子だけがいっぱい落ちているのを見るとその確率は高くはないようです。



イチイ  
(牧野植物図鑑)

イチイの場合はその偽果の中に種子がめり込んでいるので、丸ごと野鳥に飲み込まれ遠くで排泄されます。見た目も被子植物の果実とそっくりで、旧タイプの植物もいろいろ工夫しながら進化を続けていることが分かります。

因みに、被子植物の中にも花托を果肉にしたものがあります。写真はリンゴの輪切りせんべいで、星型の「芯」が本来の実です。私たちが食べる偽果は花托つまり柄の一部ということになります。

園内のイヌマキのうち何本かは二色団子の種子を生らせますが、イチイや変種のキャラボクは土地が合わないためか生ってくれません。(高谷)



## 自然ウォッチングの記録

- 花  
ウメバチソウ、ホソバリンゴウ、アキノキリンソウ、ノコンギク、ハマヒサカキ、ヒイラギ、ヤツデ、シロダモ、サザンカ、シキザクラ
- 鳥  
メジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、コケラ、ジョウビタキ、モズ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ハシホリガラス、カケス、ウグイス、ツグミ、カイツブリ、ハシロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサキ、カワセミ
- 昆虫  
セスジツユムシ、マダラスズ、ミツカトコオロギ、オカメコオロギ、ワタムシ sp
- 実  
ウシコロシ、ウメトキ、ガマズミ、ミヤマガマズミ、シロダモ、ナンテン、サネカズラ、サルトリイバラ、ムラサキシキブ、イヌツゲ、ケヤマウコギ、カキ、ムクロジ、サカキ、ヒサカキ、センリョウ、ヤブコウジ、トハラ等多数



ヤツデ

## ウォッチングの中から

日差しのないやや肌寒い日ですが、たくさんの方が集まってくれました。テーマの「実りの秋」とおり、今年には多くの実が豊年です。上記の記録以外にもコナラなどのドングリ類が地面を被うようにどっさり落ちていました。

人気を集めたのが写真のサネカズラです。たくさんの実が付いているのは、ボリュームを増して野鳥にアピールするためでしょうか。

鳥たちも多いようです。展示館裏のメタセコイアのでっぺんにツグミが止まり、こどもの森ではカケスがジャーと鳴きましたが、ともに今季初めてのお目見えです。シジュウカラやエナガなどの混群にも数回出会いました。

イロハカエデの紅葉も一部の木で始まりました。見ごろまでもう少しです。



サネカズラ

この情報紙のメール配信サービス(無料)ご希望の方は HP(<http://www.aichishinrin.jp/>)の「お問い合わせ」から「コン森通信希望」と記して送信してください。

発行 2015.11.14

愛知県森林公園指定管理者 ウッドフレンズグループ 共同 (株)ウッドフレンズ/桐建光社

0561-53-1551

「自然ウォッチング」第2(金)9:30～ 「道草ウォーキング」第3(水)10:00～ 「野の花めぐり」第4(水)10:00～  
「コンペイトウの森通信」の名称は、シラタマホシクサの別名コンペイトウグサから採用しました。